

第2回鱈ヶ沢町総合教育会議議事録

開催日時

平成27年11月2日（月） 午後1時30分開会

会議場所

鱈ヶ沢町役場 3階第4委員会室

出席委員

主宰者 鱈ヶ沢町長 東條昭彦

構成員 鱈ヶ沢町教育委員会

鶴田健榮（教育委員長） 富田名重（教育委員） 川村孝淳（教育委員）

工藤道代（教育委員） 神 豊（教育長）

出席事務局

総務課

教育課

会議事項

- (1) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について
- (2) 意見交換

に同計画終期に合わせ、本年度から平成32年度までの6年間としたいと考えています。

その他留意事項といたしまして、本大綱の実施にあたっては教育行政の中立性や継続性・安定性の確保に配慮し、町長と教育委員会が十分に連携して取り組むことに留意が必要です。また、大綱の素案・原案は教育委員会が着手し、町長はそれに関して同意等の意思決定をしていただきたいと思います。

次のページには、改正された法律の一部で、本大綱や総合教育会議に関する部分を抜粋しましたので参考として載せました。

続きまして、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の素案を用意しましたので、重要な部分について抜粋して説明いたします。まずこれからの鱈ヶ沢町が目指すべき教育の姿として、教育が目指すべき人間像についてです。教育の基本理念として主体性・積極性・創造性を育むひとつづくりを掲げます。これを掲げる根拠といたしましては、鱈ヶ沢町総合計画の基本構想において理想とする町の将来像のひとつとして掲げられていることに由来しています。主体性・積極性・創造性といった3つのキーワードごとに具体的な人間像について挙げましたのでご確認ください。

資料説明～

これらのことを踏まえて、以下の4項目を基本的方向性として大綱に盛り込みました。1、地域一丸となって取り組む教育、2、生きる力の育成、3、信頼される教育の環境、4、学びが生かせるまちづくり、以上の4つです。それぞれ2ページから3ページまで詳細について記入しましたのでご確認ください。

資料説明～

基本的方向性を計画的に推進するため、設定する期間に関してですが、先ほど述べたように鱈ヶ沢町総合基本構想との整合性から平成27年度から平成32年度までの6年間と考えています。町の大綱のほかに県教育振興大綱と国の教育振興基本計画の期間についても挙げましたので参考にしてください。

次に、基本方向を補則するために重点目標も掲げました。それぞれの項目に関して重点目標を定めましたので、ご確認ください。

資料説明～

以上を大綱案として提示させていただきました。

【②意見交換】

町長 ただいま事務局から大綱案について説明がありましたが、意見等をお伺いしたいと存じます。
鶴田委員長ご意見をお願いします。

鶴田委員長 大綱の素案としては良いと思います。教育からの地域づくりやひとづくりといった鯉ヶ沢町総合計画の基本構想を子どもたちに反映させようとする部分も良いと思います。しかし、この大綱を実際に具現化させ、現場に理解してもらい、実践させる、といったことが重要な事項になってくると思います。

町長 他の委員も意見等をお願いします。

富田委員 今の鶴田委員長の意見に関連して、この大綱に絡めた具体的な行動指針のようなものをつくるのか、具体的な現場へのアプローチ方法として何か計画しているのか、お聞きします。

町長 事務局から回答はありますか。

事務局 教育委員の皆様には具体的なお考えがあるのであれば、お聞かせ下さればと思います。

教育長 委員にはそれぞれの意見があると思うが、大綱は町の方針の大筋となるようなものであり、具体的な方針や行動指針は教育委員会の作成している教育要覧や事業計画のようなものに反映させるとよいのではないのでしょうか。あくまで大綱であるため総合教育会議において全て固めてしまうことを考えるより、実務機関である教育委員会において細かい指針等の決定を行うべきだと思います。
また、町長には教育予算や人事面での配慮をお願いしたいと思います。大綱の内容を全てとは言わないが、限りある予算等の中で可能な限り実現していただきたいと思いますし、その中で、教育委員会の教育計画等に大綱の内容を反映させればよい、というイメージを私は持っています。
大綱をもとに学校がそれぞれ方針を定めることで具体化につながるのではないかと。それを教育委員会がチェックすることで大綱を学校の教育方針として具現化させることができる。ただ、耐震化等については町の協力なしではできないので、総合教育会議を通じて予算措置等の迅速化ができ、

町が教育に対して積極的な関与をしていく形が取れるようになっていくと感じています。

富田委員

町の総合基本計画構想や教育要覧等からこの大綱を作ったが、新しいことは盛り込んだのか。

これまであったものから作ったのならば、その大綱にあわせて学校が本当に教育計画を変えるのか疑問であるし、この大綱は今までバラバラであったものをまとめて網羅しているが、教育が目指すべきものが全て変わったわけではない。

学び方や指導方法等には流行り廃りはあるが、教育はひとつづくりである、といった考え方は基本的に変わらない。

しかし、大綱としてまとめることで、教育現場である学校等に伝わりやすくなるのではないか。また、この大綱には町の総合計画も元となっているため、町長の意思も反映されていると言える。

鱒ヶ沢町独自の項目等はあるのか。どこの教育大綱を見ても似ている気がしてならない。

事務局

町民文化祭やふるさと学習等の詳細な事業としては鱒ヶ沢町独自のものはあるが、大きな項目としてはなかなか挙げるのが難しい。

教育長

その詳細な事業についてだが、資料13ページの公民館を利用した地域の拠点づくりの推進というのはこれまでより一歩踏み込んだ新しいものだと思います。公民館職員を地域のコーディネーターとして人材育成するというのは、将来的にはコミュニティスクールの土台となりうるし、国はコミュニティスクールを推奨しているが、青森県ではまだ一件の報告もなく、最近横浜町が実験的に開始しようという段階となっています。そのため、この試みは大変興味深いことと感じています。

ただし、コーディネーターの育成には研修等に関する教育委員会や町のバックアップが必要ではあるが。

富田委員

他には、地元の高校を巻き込んだまちづくりや教育体制をとることはできないのか。地元で高校のない町村と差別化できるうえに、高校生という若い人材を巻き込んだ地域ぐるみの教育大綱の作成はできないものか。高校生を巻き込むとなると町長の協力なしには実現できないが、町長はどのようにお考えか。

- 町長 鱒ヶ沢高校の生徒数が年々減少している。隣町の木造高校深浦校舎では岩崎地区からの入学希望者もあり一定の生徒数が確保できているようだが、鱒ヶ沢高校では周辺の地域が木造や五所川原への通学の便が確保されているためか、子どもの数の減少より大きく生徒数が減っている。確かに鱒ヶ沢高校が廃止という事になれば、町の経済等に与える影響は甚大と痛感しています。
- 富田委員 生徒数だけ見るのではなく、高等学校という組織自体の利用をして相互発展すればよいのではないか。
- 教育長 文化祭でのグランドゴルフ大会や高校生による鱒ヶ沢甚句流し踊り大会などに見られるように鱒ヶ沢高校は地域に目を向けている。町唯一の高校として鱒ヶ沢高校の存続は必要である。そこへ鱒ヶ沢高校の学力向上や水産科・農林科等の専門的な学科の設立が実現すれば、近隣高校との差別化が図れると思います。
- 富田委員 それを大綱に追加すればよいと思うが、可能なのか。
- 教育長 この大綱は小中学校等の対策は反映可能だが、県立高校ということから別の場面での議論が必要となります。
- 川村委員 一気に学校が減った。地域の教育も掲げられているが、子どもの数が減り、学校自体が減ることにより地域の勢いのようなものもなくなってきたし、運動会等行事でも離れた地域で行われると一層寂しく感じます。
そういった点から地域との連携といったものは今まで以上に深く考える必要があると感じています。
- 教育長 いま、鱒ヶ沢の各地区にキッズクラブ等の子どもたちのコミュニティが形成されつつあり、西海地区では昔から継続してそういったコミュニティが存在している。最近ではあるがそういった動きや組織が増えてきている以上、無理に働きかけることはどうか。
- 工藤委員 地域での集まりに関して、子ども達の集まりは人数が少なく親を含めて固定化しており、変化させる場合は上に立つ人が変わらなければならない。そのため新しいリーダーの育成が必要だが、小さいコミュニティでは限界があるため、教育委員会や町の協力が必要です。また、保護者の結束が弱

くなっている点も気になり、大綱には社会教育という点において町内会活動やPTA活動の活発化に関することを盛り込んでみてはどうか。自分自身も含めて、親や地域の人々の教育という点から鯉ヶ沢の教育を新しい方向へ変えることもできるのではないかと。

他には、公民館職員が2、3年で異動するのはいかがなものか。地域に根付いた知識と経験豊富なコーディネーターとして10年程度同じ担当にいて欲しい。地域力を高めることを考えると、公民館職員がリーダー育成や活性化を行うコーディネーターとして動くことが重要であり、PTA・町内会・公民館職員等に関するこれまでの体制からの変化が必要であると思います。

社会教育に関する問題は多々あると思うが、西海地区のように町内会とPTAの連携等を一生懸命に継続させなければならない。

地域連携の一生懸命さに関していえば、10年以上前の出来事だが、講演会等があっても、大人が真剣に取り組んでいるとは思えない状況も一部において見受けられた。今は変わっているかもしれないが、それよりさらに以前に自分がPTA等に携わっていたころとの違いに違和感があったのは確かです。

町長 親も時代や社会の変化でいろいろと忙しいのではないかと。

工藤委員 子育てのほかにやるべきことがあって忙しいのはわかるが、科学技術の発達により昔よりは楽にはなっているはず。昔は教育に関する先生への信頼感や地域に対する人々の愛着が強かった。そういった変化に歯がゆく感じるし、忙しいだけが問題とは思えない。しかし、社会の変化等を考えると仕方がない部分なのかもしれない。

町長 教育だけではなく、ひとづくりやまちづくりは難しい。

工藤委員 ひとづくりやまちづくりには、やはり若いひとの活力が必要だと思うが、鯉ヶ沢町の高齢者は元気がある。
各地区を見ると鳴沢地区の若い人には、活気が感じられる。若いひとの活気がある地区とそうでない地区と交流しながら学んでいく場の提供が必要で、それが教育やひとづくり、まちづくりにつながると思います。そのような機会があればと思っている人は多数いると思うが、ひとりで悩んでなにをすればいいのかわからないひとやリーダーにはなりたくないという人もいますので、難しい問題だと感じています。

川村委員 今年度から西海フェスティバルというものを行ったが、全て自前で行うのは初の試みで、学校を活気づけたいと思い始めました。各学年で企画等を行わせ、親子ともに楽しみにしているひが多かったが、中には消極的な人もいなかったわけではありません。さらに、鱒ヶ沢の現状について考えると様々な事情があるにせよ、考えさせられるものがありました。

工藤委員 対象者が子どもなのに親がそういった行動を取るのには残念な気がします。

他にも私が気になっているのは保育所や学校同士の交流について、保育所・こども園はなにかイベントがあると合同で参加して、親子ともに交流しているように見えるが、小学校は2校しかないのに、それぞれが交流しているようには見えず、西海小は西海小、舞戸小は舞戸小というように交流について意識していないような気がします。中学校は1校になってしまったが、それぞれの地域から集まっていることから交流という点では役立っているのかもしれない。

教育長 小学校同士の交流はできることなら行ってみたい。しかし、2校だけというのと予算等の関係でできていないのが現状である。

工藤委員 そういった交流からそれぞれの地域性を出すことや、鱒ヶ沢町全体のいいところを見つけることが地域力の向上につながるのではないかと。

町長 社会教育のことが主に挙がっていたが、大綱について他に意見等はないかと。

各 委員 全体的にまとまっており、この大綱案でよいのではないかと。

町長 いろいろな意見をいただいたが、大綱について具体的な意見等は他にないかと。

教育長 大綱が決定したならば、速やかに町内各学校に示す。そろそろ来年度の計画等の立案時期なのでできるだけ早く行い、教育委員会も大綱に沿った来年度の計画を立てて、学校にも大綱に沿うよう努力してもらおうよう働きかける。

町長 さまざまなご意見等ありがとうございます。

委員の皆様方のご協力により大綱が承認されました。本日の会議をもつ

て将来を見据えた教育計画等実行できるようにしていきたいと思います。
教育委員のみなさまにはこれからも鱒ヶ沢の教育についてさまざまな意見
等をいただけたら幸いです。

事務局

以上を持ちまして第2回鱒ヶ沢町総合教育会議を終了します。